

月刊

300



地図と学ぶ

通巻

636

2025年9月

地図中心

総特集 **さいたま市** ＝浦和＋大宮＋与野＋岩槻



多彩な貌のまち・さいたま市	浅川 俊夫	3
さいたま市全図	編集室	8
中山道の宿場街、浦和・大宮の歴史	新井 浩文	10
城下町・岩槻	坂井 尚登	14
浦和駅周辺の地形	小池 忠明	18
鉄道のまち・大宮	枝久保 達也	20
さいたま市の鉄道	今尾 恵介	24
江戸幕府の財政再建はおまかせあれ！ - 井澤翁が開削した見沼代用水と見沼たんぼ -	野尻 靖	28
大宮・氷川神社と岩槻・久伊豆神社 - 神社の景観を読み解く -	島村 圭一	32
さいたま市にかかわる荒川	加藤 智博	36
さいたま市の市街地再開発	菅野 峰明	40
「大宮鳥瞰図」吉田初三郎 1934 (昭和9) 年	編集室	44
1967 (昭和42) 年 旧大宮市と旧与野市中心部/旧岩槻市中心部・旧浦和市中心部	編集室	46
2025 (令和7) 年 大宮駅と与野本町駅周辺図/岩槻駅周辺図・浦和駅周辺図	編集室	48

新刊地形図案内 50 / 今月新刊の見どころ！・日本地図センター便り 51 / 編集後記・次号予告 52

※「さいたま市」の「さ」は、正式には二画の「さ」を使いますが、本稿ではフォントの都合上、三画の「さ」で表記している場合があります。

《表紙》「埼玉縣鳥瞰図」吉田初三郎、1934 (昭和9) 年 (部分、×1.13)

埼玉県の東南部は、関東平原の中心帝都に密接し、その西北には甲武信岳を盟主として、三国・雲取・三峰・武甲など、いわゆる秩父の連峰が、さっそうとした緑につつまれ、左方遙かに、夢かあらず、日本一の富士の白雪を、碧空のかなたに望みうるところ。県全体の面影が限りなく明るさと、よりほがらかさを示している。(吉田初三郎「絵に添へて一筆」より抜粋、現代仮名遣いに編集)

一般財団法人日本地図センター

東京時層地図

Tokyo JISOU MAPS



『時層地図』は、同じ場所の古地図と現代の地図、過去に撮影された空中写真を切り替えて見比べることができるスマートフォン・タブレットアプリ。過去につくられた地図や空中写真を重ねて見ることで、地層のように土地の変遷を知ることができる、街歩きには欠かせない大人気の地図アプリです。

『東京時層地図』は、「文明開化期」「明治の終わり」「関東地震直前」「昭和戦前期」「高度成長前夜」「バブル期」と6時期の古地図のほか、過去撮影の空中写真に現代の地図・空中写真などを加えた19種類を収録しています。

iPhone

価格(買い切り)
1,900円(税込)

<https://www.jmc.or.jp/digital/app/iphone-tokyo-index/>



iPad

価格(買い切り)
2,500円(税込)

<https://www.jmc.or.jp/digital/app/ipad-tokyo-index/>



Android

価格(定期購読)
1週間110円, 1ヶ月220円, 1年860円(税込)

<https://www.jmc.or.jp/digital/app/android-tokyo-index/>



iPhone版とiPad版、Android版があり、それぞれで古地図の収録範囲が異なります。詳細はウェブサイトでご確認ください。



一般財団法人日本地図センター
<https://www.jmc.or.jp/>

為替レート変動等を理由に Apple inc. および Google LLC が 価格を変更する場合があります。

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円(税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円(税・送料込)

プレミアム会員(シニア) 満65歳以上

5,500円(税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員(紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費(税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員(シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

多彩な貌のまち・さいたま市

あさかわ としお
浅川 俊夫

1. 合併で誕生したまちと「さいたま新都心」

さいたま市は埼玉県南東部に位置している県庁所在地で、政令指定都市である。東京駅を中心に等距離線を描いてみると、25kmの線が市の中央部を横切り、同様に県庁所在地で政令指定都市の千葉市と横浜市とほぼ同じ位置にある(図1)。

2021(令和3)年に制定された「さいたま市民憲章」には、“武蔵野のみどりにいだかれた”まち、“街道や鉄道のかなめとしてにぎわい、歴史をかさねてきた”まち、“独自の文化を育て、教育やスポーツのさかんな風土を培ってきた”まちとして、市の多彩な貌の一端が示されているが、そうした多彩な貌を持つ理由は市の成立過程にある。

さいたま市は、2001(平成13)年5月に浦和・大宮・与野の3市の合併により誕生。2003年4月には全国で13番目の政令指定都市に移行して9つの行政区を設置。さらに、2005年4月、岩槻市を単独の区として編入し、10行政区からなる現在のさいたま市が成立した。

全国的には、県庁所在地が周辺と合併したり、一般の市が合併で政令指定都市に移行したりする例は珍しくないが、そのほとんどは中核となる都市が周辺自治体を“吸収”する形である。しかし、さいたま市の場合は、県庁などが置かれて“県都”といわれた浦和市と、全国有数の鉄道ターミナル駅や多くの商業施設などが立地して“商都”といわれた大宮市という、それぞれ人口規模もほぼ同じで埼玉県を代表する二つの市と、2市に挟まれ住宅地が広がっていた与野市の3市が“対等”な形で合併

して新しい市となり、政令指定都市に移行している。

ただ、この合併は順調に実現したわけではない。合併構想は昭和初期からあったが、話題になった映画『翔んで埼玉』で揶揄されていたように、3市の間には各市の特性の違いに起因する確執や合併の枠組みを巡る思惑の違いなどがあって、実現には至らなかった。

合併実現への契機となったのが、1982(昭和57)年に埼玉県が策定した、3市に上尾市と伊奈町を含む「埼玉中核都市圏構想」である。折しも、1984年に3市の境界にまたがっていた旧国鉄大宮操車場が大幅に縮小されて約47haという広大な跡地利用が課題になるとともに、東京一極集中への対応として首都機能の一部を分散させる国の政策が進められつつあった。これをうけて、県は、同構想に操車場跡を、政府関係機関移転により新都心として整備するプロジェクトを盛り込み、実現を目指した。

1988年には、地方の振興と大都市圏の機能分散を図る多極分散型国土形成促進法が成立し、翌1989年、「幕張新都心」・「みなとみらい21」との競合の中、働きかけが功を奏して政府関係機関の操車場跡地への移転が決定した。その際の条件が、3市にまたがる移転先の行政区域を一つにすること、すなわち「合併」だったのである。決定後も、合併の枠組みや新市の名称などをめぐり、浦和と大宮が対立する場面もあったが、それらを乗り越え、2001年5月には3市の対等合併による「さいたま

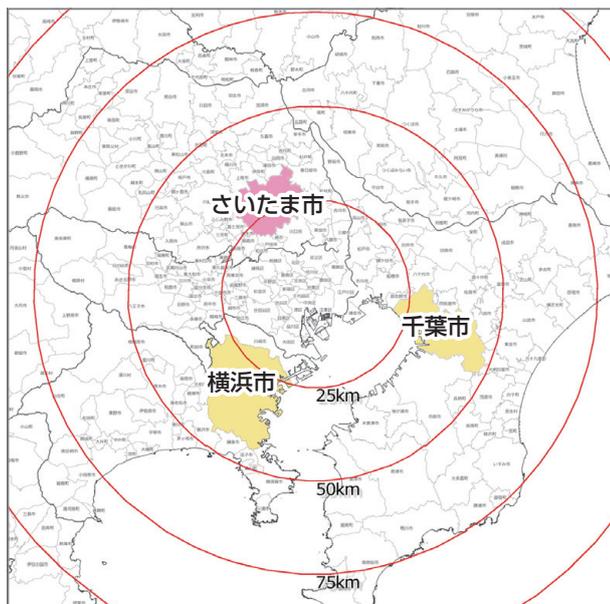


図1 東京駅からの等距離線図(地理院地図[2025年8月取得])

市」が誕生した。

合併の要石となった「さいたま新都心」(以下、新都心)は、1991(平成3)年に工事が始まり、街区の整備が進むとともに、主として関東地方を所管する国の10省庁18機関が移転して、さいたま市誕生前年の2000年5月には「まちびらき」を迎えた。

現在の新都心は、JR在来線の鉄道路線と、新都心駅南側をトンネルで横切る“東西大通り”で、ほぼ4つの街区に分けられ、それぞれに機能や役割が異なった街並みが広がっている(図2)。

2. 土地利用と人口の諸指標から見たさいたま市

さいたま市の面積は217.4km²。県庁所在地では40番目、東京特別区と21政令指定都市の中では19番目になる(2024年7月1日時点)。市域を地目別で見ると、宅地が40%、農地が20%を占める。

人口と人口密度は、それぞれ134.5万人、6,186人/km²(2024年1月1日時点)である。人口は県庁所在地としては8番目で、東北や北陸・四国などの26県の各県総人口を上回り、人口密度は6番目に高い。また、対前年人口増加率は4.2%



(= 0.42%)で、東京都区部と政令指定都市の中では、福岡市・東京都区部・大阪市に次いで4番目になり、千葉市と横浜市を大きく上回っている。高齢化率は23.3% (2024年1月1日時点)、昼夜間人口比率は92.9 (2020年10月1日時点)となっている(図3~6)。

次節からは、大宮区と浦和区を中心に行政区に着目して、さいたま市の多彩な貌のまちの一面を紹介する。

3. 大宮区と西区・北区・見沼区

〔大宮区〕

大宮区は、新幹線を含むJRや私鉄など14路線が発着する全国有数の鉄道ターミナル駅・大宮駅を中心に、さいたま市だけでなく埼玉県との交通と経済の中核となっている。それは、136.9という同区の昼夜間人口比率が端的に示している。

古くは武蔵国一宮・氷川神社の門前町、旧中山道の宿場町として栄え

た。明治に入り、東北に向かう鉄道路線を敷設する際、既設路線からの分岐点として1885(明治18)年に大宮駅が開設。その後も、明治中期の鉄道工場から現代の鉄道博物館まで様々な鉄道関連施設が建設されたり、在来線から新幹線まで鉄道路線の整備・充実が進んだりしたことで、“鉄道のまち”として発展が続いてきた。

区域は、JR高崎・宇都宮線で東西に二分される。東側は、大宮駅東口付近を中心に多くの事業所や商業施設が早くから立地し、発展してきた。その周辺は戸建てが多い住宅地や、氷川神社、大宮公園等の多くの人々が憩える緑地空間も広がっている。西側は、かつては、大宮駅西口付近に小規模な飲食店や家屋が密集して、その周辺では農地と住宅が混在して広がっていた。しかし、1980年代半ばから県が進めた市街地再開発事業の結果、西口は商業施

設やオフィスビルが建ち並ぶ景観へと一変し、現在では東口を凌ぐ活気溢れる街になり、その周辺地域も住宅地が変わっている(図7)。

〔西区・北区・見沼区〕

西区は市の北西部に位置し、市街地はJR川越線を挟んでほぼ区の中央部に広がる。市街地周辺の台地上や荒川の沖積低地、台地内の中小河川に沿う低地帯には、野菜や果物栽培の農地や雑木林の緑地が広がり、自然が多く残る。

区の人口は、10区中の最少だが、2009(平成21)年3月には、区役所に近接して西大宮駅が新設され、区内唯一の駅だった指扇^{さしおうぎ}駅の改修・周辺整備事業と併せて、交通環境・居住環境の整備が進められつつあり、人口増加率は市全体を上回るとともに、昼夜間人口比率も86.7と区外への通勤・通学住民が多い。

北区は市の北部に位置する。区内にJR川越・高崎・宇都宮線の各1駅、

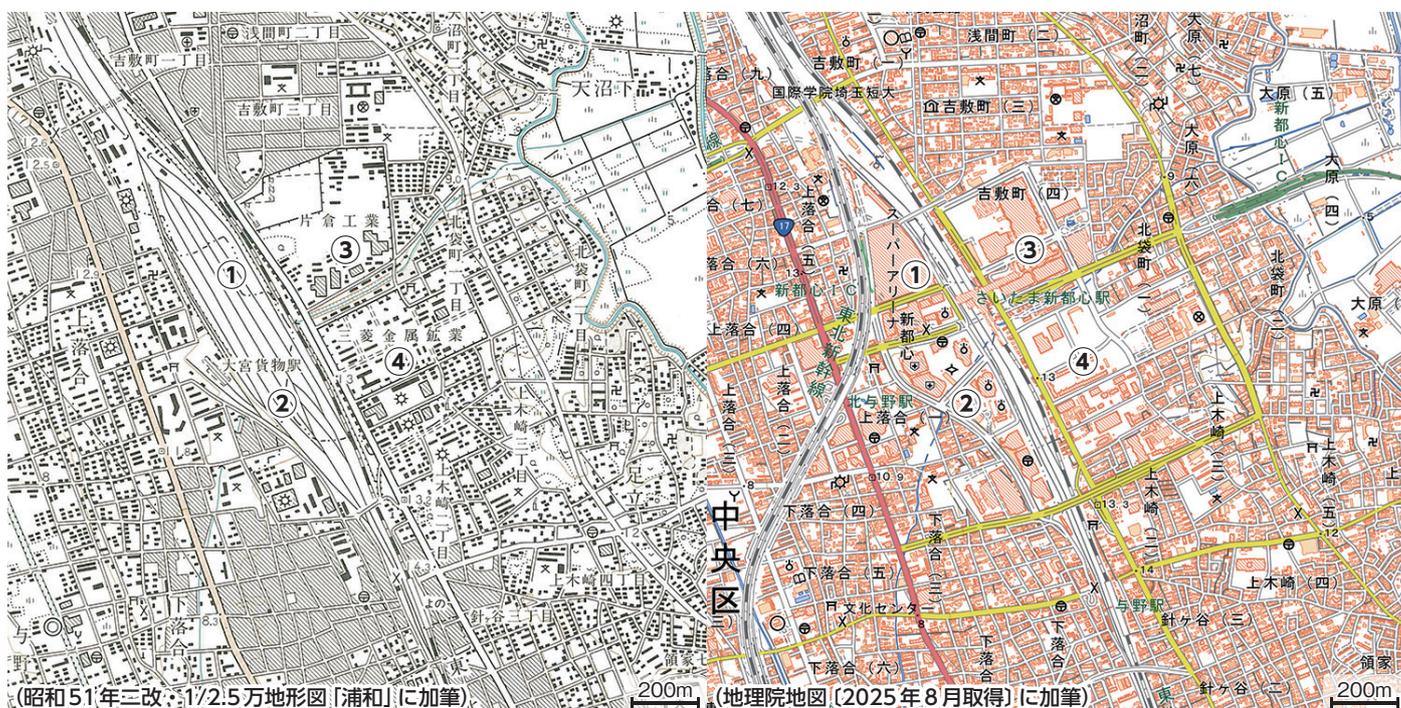


図2 変貌した「さいたま新都心」とその周辺

大宮操車場跡が整備されたJR在来線西側の①・②街区のうち、大通り北側の①街区は、コンサートやスポーツイベントが行われる「さいたまスーパーアリーナ」や民間のオフィスビルが建ち並ぶ。同南側の②街区は、新市誕生の契機となった政府関係諸機関が入る合同庁舎やさいたま赤十字病院・県立小児医療センターなどが建ち並び業務地区である。この二つの街区間には、多くの飲食店があってイベントなども行われる「けやき広場」がある。

在来線東側の二つの街区のうち、③街区は、製糸工場跡が商業地区として整備され、様々な業種の店が入る大型商業施設群「COCOON CITY(コクーン[繭]シティ)」が立地。④街区は、当初の「さいたま新都心」整備事業と連動して、民間企業の総合研究所跡地が再開発された地区である。土壌汚染問題などで開発が遅れていたが、近年になり、造幣局や埼玉県警統合庁舎、県内企業本社ビル、高層住宅などが次々に建てられている。また、2031年には、合併時の懸案だった新市役所本庁舎もこの地区への移転が予定されている。

図からは、「さいたま新都心」の周辺でも、工場跡地などが高層住宅やオフィスビル、商業施設といった大きな建物に変わっていることも読み取れる。

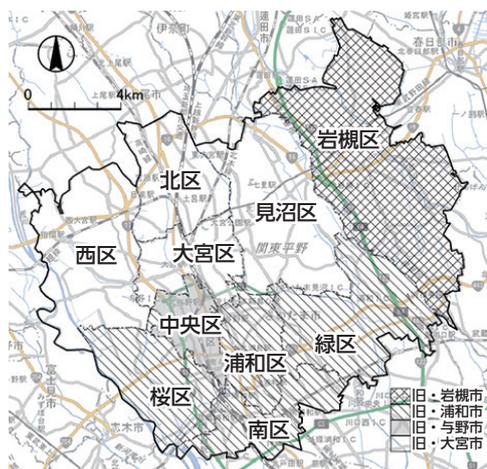


図3 各区の位置と合併前旧市との関係
注: 厳密には旧4市域と行政区画は一致しない。

ニューシャトル(埼玉新都市交通伊奈線)の4駅、計7駅があって交通利便性が高く、各駅周辺や沿線には大宮区から続く住宅地が広がる。

また北区は、盆栽と漫画という、日本が世界に誇る文化を発信している区である。盆栽は、関東大震災後に被災した都内の植木職人らが盆栽づくりに適した広い土地を求めて区南部に集団で移住したことに始まる。その後、盆栽園周辺には閑静な住宅街“盆栽町”が形成されるとともに、2008(平成20)年には「大宮の盆栽」が市の伝統産業に指定され、2010(平成22)年には大宮盆栽美術館が開館して、盆栽文化を国の内外に発信している。漫画は、日本の近代漫画を確立した北澤楽天に因む

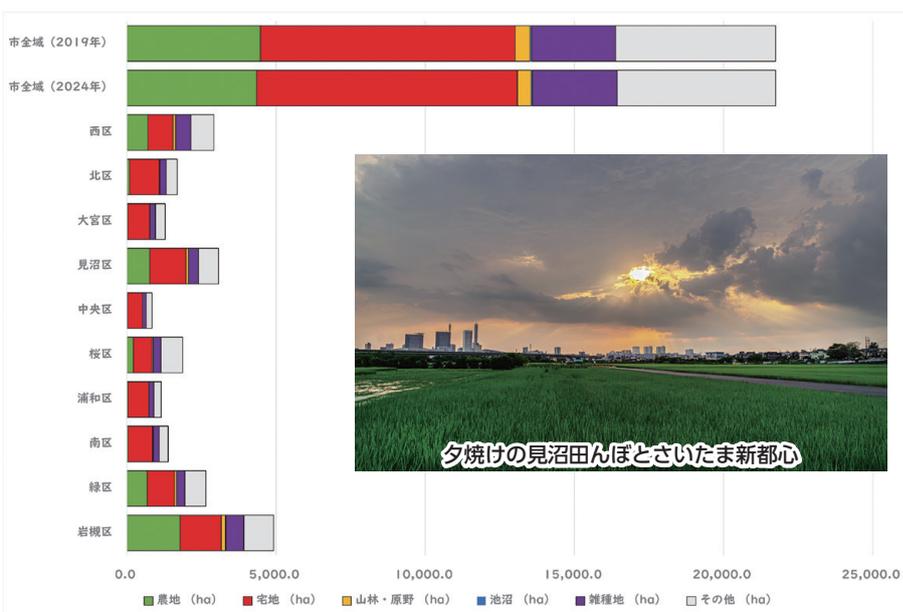


図4 さいたま市全体と各区の地目別面積(2024年)
最も広い区は岩槻区(49.2km²・市全体の23%)、最も狭い区は中央区(8.4km²・同4%)
(さいたま市「令和6年版統計書」より作成)

もので、1966(昭和41)年には旧宅跡地に、楽天の作品を展示する市立漫画会館が開設され、漫画文化を育てていく拠点となっている。

見沼区は市の北東部に位置する。東部には、江戸時代の新田開発のために引かれた見沼代用水東縁や綾瀬川が流れ、南西部と南部は芝川に近接していて、これらの河川に沿う低地帯には、水田に加えて花卉や野菜栽培の畑などが広がる農村的な景観がみられる。一方、北部には高層住宅群をはじめ計画的に形成された市街地が広がる都市的な景観がみら

れ、その共存が区の特徴である
区内のほぼ中央部を東武アーバンパークライン(東武野田線)が走り3駅が、北西部にはJR宇都宮線が走り1駅があるが、前者は都内に直通する路線とはなっておらず、後者の東大宮駅も区の北西端に位置しているため、他区に比べて区全体での交通利便性に課題があり、人口増加率も市平均を下回っている。

4. “自動車のまち”だった中央区

中央区は市の中西部で大宮区・浦和区に挟まれた位置にあり、区域は

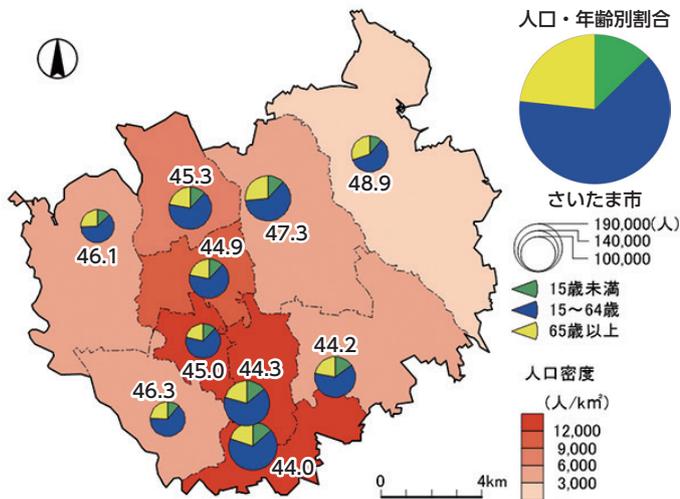


図5 各区の人口と人口密度(2024年)
図中の数字は平均年齢(さいたま市45.5歳)
人口が最大の区は南区(19.4万人・市全体の14%)、最小の区は西区(9.5万人・同7%)。市全体の人口密度は6,186人/km²
(さいたま市「令和6年版統計書」より作成)

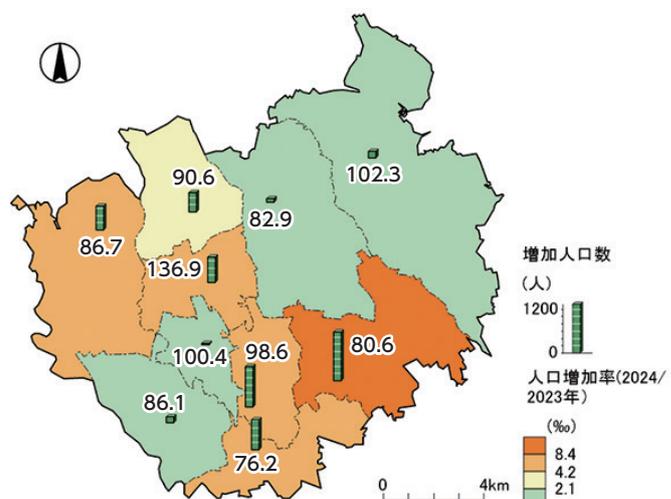


図6 各区の人口増減数と対前年人口増加率(2023~24年)
図中の数字は昼夜間人口比率(さいたま市92.9・2020年)
市全体の人口増加は5,679人。対前年人口増加率は4.2%。増加数の最多は緑区(1,340人)、最少は中央区(48人)
(さいたま市「令和6年版統計書」より作成)

編集後記

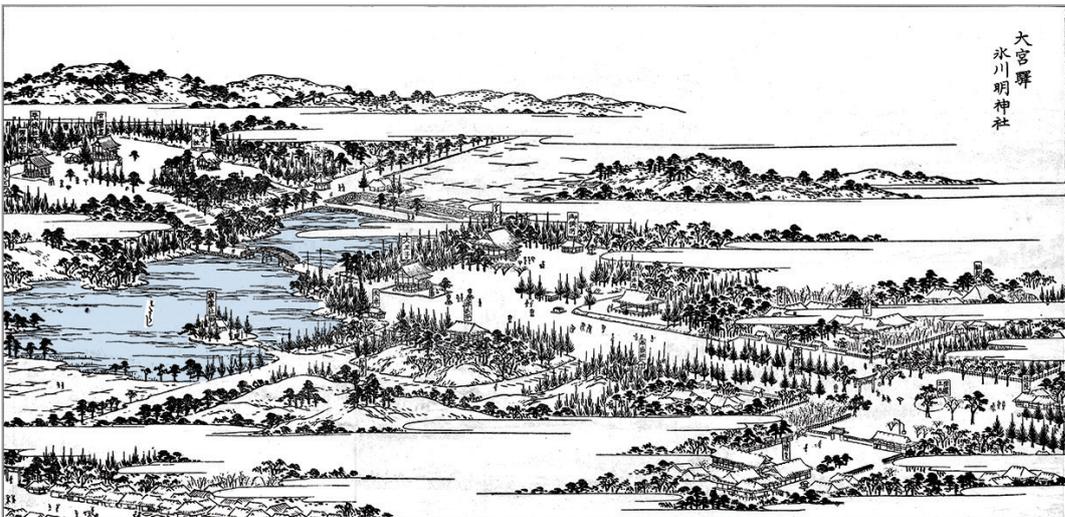
さいたま市となってまもなく四半世紀。現在の市域になって20年。固有の歴史や文化を持つ4市が一つとなって紡いだ四半世紀には、興味が尽きません。

吉田初三郎筆「大宮鳥瞰図」の表紙(44ページ上段)には、江戸期の浮世絵が配されています。これは、木曾海道六十九次「木曾街道 大宮宿 富士遠景」(右上図)。遠景に富士、左隅には「青面金剛」とある庚申塔。これは与野駅南側の中山道にある庚申塔とされ、絵の右に向かう駕籠や旅人は、浦和宿から大宮宿に向かう道中となります。

また、表紙の背景図は、江戸名所図会「大宮駅 氷川明神社」(右下図)を左右に詰めたのではと推察しています。資料収集や現地調査を入念に行う初三郎ですから、江戸名所図会も参考にしたとしても不思議ではないかと。(編集長・小林政能)



木曾海道六十九次「木曾街道 大宮宿 富士遠景」 溪斎英泉 (信州デジタルcommons)



江戸名所図会「大宮駅 氷川明神社」(彩色、国会図書館)

次号予告 2025年10月 通巻637号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 特集 米づくり風土記—稲作列島のいま

日本人の主食＝米。その生産の歴史は、地域ごとの地形や気候、そして人々の生活と密接に結びついています。産地の変遷、ブランド化への工夫、価格競争の背景。さらには最新のスマート農業や、中山間地域での教育実践まで。米と地図を通じて、日本の農業のいまを見渡してみましょう。



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心

2025-9 通巻636号

発行 2025年9月10日

発行所 一般財団法人日本地図センター

〒153-8522

東京都目黒区青葉台4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(月刊「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880円(税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

